チョーにとって働くことは彼女のすべて、そこに遊びはない。

バンコクポスト　２００９．１２．２０記事より抜粋

ビルマの人々は苦しむことになれている。ビルマは東南アジアの中でもっとも健康水準が低い国だ。しかし政府はそれに対しての資金はない。天然資源から得られた何億もの資金を政府は吸い上げ、人々は隣国で医療サービスを探すことを強いられている。

午前の半ばのタイ、ビルマ国境、医療を受けるためにメータオ・クリニックを訪れている多くの人々の波の中、１人の素足の少女が彼女の体重の半分であろうと思われる熱をだした赤ちゃんを抱かえてきた。

少女の名前はチョー。彼女はクリニックの小児科外来で白衣を着た医療スタッフの前にできた長い列の中に押されながら受診を待っていた。

メー・ソーは小児科のマネージャーであり、ベテラン医療スタッフである。メー・ソーはチョーをみあげたずねた。「ママはどこにいるの？」
チョーはずり落ちそうな赤ちゃんをお尻で持ち上げこう言った。「ママは死んだの。私が今ママよ。」

メー・ソーはチョーの答えにショックを受けた。しかし赤ちゃんは緊急医療を必要とする状態だったためにメー・ソーはそれ以上チョーに深く話をする時間はなかった。

「チョーの赤ちゃんの妹、ワイはマラリアを患い重症でした。ワイは脱水状態でしかも貧血もありました。彼女は緊急に輸血が必要で、私たち（医療スタッフ）は生食水で点滴をしなければいけない状態でした。」

メー・ソーは両方の子供の福祉を心配しながら答えた。

「私は彼らには母親がいないことがとても心配です。たった１２歳の少女が重症な病気の赤ちゃんを抱えて、大人の保護もなく遠くからクリニックを訪れなければいけなかったということにとても心配しています。」

メー・ソーはビルマ国内からクリニックへ来ることは大人でさえも難しいという。

「チョーの家からクリニックまで少なからずとも６時間はかかったでしょう。ここにたどり着くまでにたくさんの武装チェックポイントがあります。そしてそこでは子どもたちを利益としてみなす人々もたくさんいます。チョーにはお金もなく、誰も助けるひとはいませんでした。二人の子供たちは身に付けた唯一の服だけでクリニックに到着しました。」

チョーはなぜメータオ・クリニックに来たのか話を説明してくれた。
「ワイは５日間とても病気に苦しんでいたわ。ワイはとても熱く、ずっと泣いていたわ。でも薬を手にいれるお金はなかったの。私は悩んで、もしタイに行かなければ私のママのようにワイも死んでしまうと思うと本当に怖かったの。私が住んでいた村のたくさんの人たちがワイをシンシア先生にみてもらうようにと教えてくれたの。」

チョーが家をでたときはまだ早朝だった。

「あたりは真っ暗で、電気もなく、お日様はまだ出てなかったわ。」

そして彼女は２年前に母親を亡くしたときどんなにつらかったかと話をしてくれた。

「ワイはまだ６カ月の赤ちゃんだったわ。ママはとても病気で一日中トイレに行っていたの。ママは元気になることはなかったわ。薬を飲んだけれど何も効果はなかった。そして死んでしまったの。」

メー・ソーはチョーの母親はおそらく赤痢の合併症で死んだのだろうと言及する。

「もしチョーの母親が適切な治療を受けることができたら死は免れたろうに。」

ビルマの感染症と人権問題に詳しいジョンズ・ホプキンス大学、公衆衛生・人権センターのサクワンバニッキー・ボルビッド医師はメー・ソーの話を認めるだけでなく、ビルマ政府が基本的な医療サービスを人々に提供し保護することを欠いていると指摘する。

「これはただの悲劇ではない。さらに深く犯罪といえるであろう。母親の死は免れることができただろうに。」

タイ・ビルマ国境沿いのビルマの人々を助けるべく、メータオ・クリニックは１９８９年にシンシア・マウン医師に設立された。その患者数は毎年増加している。

２００６年クリニックは治療が必要な１０７，１３７人の患者を診察した。

２００８年、その数は増え１４０，９３７人までにも上った。メー・ソーは２００８年に小児科で診察を受けた子供の数は１３，４３８名であり、主な患児は急性呼吸器疾患、マラリア、貧血だと述べている。

医療を必要としている患者数は増えているのにもかかわらず、ドナー（寄付団体）が支援を撤退したために２０１０年は予算が不足するだろうと話す。

「クリニックは２０１０年７５万ドル、２００９年３５万ドル（１１６００、０００バーツ≒日本円で約３４８０万円）の不足を予想していました。毎年毎年資金集めをしています。短い期間の支援は私たちに短い期間の息をするだけの猶予をあたえてくれるのみです。」

増加する患者背景はビルマの貧困、軍事政権の抑圧、人権侵害などを示しているとシンシア医師は述べる。

「ビルマの貧しさは増すばかりです。私たちは治療するのはもはや難民や移民だけではなく、都市やビルマの奥深くから来る人々も治療しています。私は２０年以上患者の減少をみたことはありません。
現在薬や、食事、子供の保護や育成などに必要な資金が不足しており来年が非常に心配です。」

ビルマ問題に取り組むすべての組織が、現在の政権を変えることの難しさに直面しているとシンシア医師は語る。

「近い将来ビルマで何か変化があるか期待はもてません。」

一方で、ビルマ軍事政権は、国際貿易制裁の撤廃と多額の支援金を手にするために、各国政府や人道支援団体、NGO に、より公平な社会作りに取り組んでいることを呈する国家憲法を示しているが、国際社会から批判を浴びている。

憲法に示されている基本原則１７章の一文では「国家は真摯に国民の教育と健康の改善に努めなければならない。」を記す。

しかし、現状をよくみてみると、その憲法は空虚な物であるといわざるを得ない。

ボルビッド医師はビルマの健康水準はアジアの中で最も悪いという。

「ビルマの人々は基本的な医療を受けるためにタイ側にきます。保健のインフラ整備への投資が十分でなく、国内で提供されるべき、もっとも基本的で費用効率が高いはずの医療が受けられないために、ビルマ国内では人々が命を落としています。ビルマの７％を超える子供たちは１歳の誕生日まで生き抜くことができず１０％は５歳になる前に亡くなってしまうでしょう。」

ボルビット医師は、こうした統計の数字は、軍事政権が長期わたり（国民の健康問題を）無視し続けてきたことを示し、その表明とは裏腹に、ビルマの保健システムが崩壊していることを明らかにしている、と語る。

国内避難民のビルマの人々のために医療を提供するバックパックヘルスワーカーチームによってだされた保健報告書、「慢性緊急状態」によると、東ビルマ国内の状況はさらに劣悪だという。１０人のうち１人は１歳になる前に亡くなり、５歳の誕生日を迎えられるのはそのうち５人に１人、１２人に１人の女性が妊娠や出産による合併症で命を落とすと報告している。

ボルビット医師はこれらの数値はルワンダ、コンゴ共和国、ソマリアのような国々の悲惨な状況に匹敵すると述べる。

ボルビッド医師の非常に厳しい真実は国連、ＷＨＯ（国際保健機構）などを含んだ数多くの国際報告書によって明らかである。

国連開発計画人間開発指数ではビルマは１７７カ国のうち１３０番目に位置する。ＷＨＯは１９１カ国の中で２番目に悪くビルマの保健システムを位置づける。政府の１人あたりの保健にかける予算は８９ドル（２，９５５バーツ≒９，０００円）というタイ国と比較しビルマ政府は０．７４ドル（２４バーツ≒７０円）の予算を見積もっている。

ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生学院の保健報告書 Gathering Storm ではビルマ政府は４０万人以上にも及ぶ軍隊をそなえ国家予算の４０％を軍事費に占める一方、保健の国家と予算はわずかに３％のみにすぎない。

シドニーのマクアイアー大学のシェーン・ターネル医師はサイクロンナルギスの後、ビルマ政府は石油や天然ガスなどの国家資源を売り歳入を搾取し、それを海外の銀行に貯蓄し政府のものとしているということが非難となっているという。

「ビルマは現在天然ガスをタイに売ることで年間１０億、２億という歳入を得ていますが、これらの財源は国家の公的予算としては遠ざけされています。」

ターネル医師はこれらの資金は海外へ移され、政権のＳＰＤＣ（国家平和開発評議会）の陰で資金を握ることができるのはトップのわずかな指導者たちと語る。

「ビルマが稼いでいるガスは今日ネピドーという新しい首都を建設し中国から軍事装備を購入、国家の政策作りの長く特徴づけられた計画や傾向の資金集めに従事されています。」

アースライツ・インターナショナルのマスー・スミス氏はビルマは国家資源から何１０億もの収入を得ているという。

「２０００年以降、ヤンダナガスプロジェクトは７０億ドルもの歳入を得ました。しかしそのうちの巨額な４８．３億ドルは使われるべき、ビルマ国民を通り抜け軍事政権下で支配されることに終わりました。」

チョーの父親、日雇い労働者が仮に仕事をみつけ稼げるお金は１日３０００チャット、３ドル以下であり、その一方政権がビルマ国民に使われるべきお金を奪略している。国連は家庭の収入予算の中で平均７３％の家族が食費だけにその収入の全てを費やし世界でもビルマは最も深刻な食糧問題の国のひとつとしており、３分の１の子供が栄養失調に悩んでいるという。

「これらの結果、ほとんどのビルマの家庭では基本的な医療が手が届かない贅沢なものとなっています。」とボラビッド医師は語る。

軍事に偏った政策のつけを払わされているのは、賃金労働者だけではない。2 年前に母親をなくしてからというもの、チョーは幼い 5 人のきょうだいの面倒をみ、父親と新しい母のために家事を請け負っている。

「みんなが仕事のときは私がきょうだいの面倒を見るの。朝はまだ暗いうちにおきて、火を起こし、ごはんのための水を汲むわ。」

チョーは 1 日 6kg の米を 3 回に分けて料理する。水を加えると米となべは小さな彼女には重すぎて持ち上げることができない。「私は強くないから。お父さんやお兄さん、お姉さんが帰る 6 時過ぎまで子どもたちの面倒をみて、みんなの夕ご飯を用意しなくちゃならない。」

「時々病気になって休まなくちゃいけないときは、もし誰か時間のある人がいれば手伝ってもらえます。暇な時間があれば遊びます。」

チョーは学校が恋しいと言う。「おかあさんが死んだ時、学校をやめなくてはいけなくなったの。でもお母さんのことはもっと恋しいな。お母さんがいたとき、生活はもっと楽だった。お母さんがいてくれたら学校に行って遊べるのに。お母さんの抱っことキスが恋しい。」

「時間があるときには遊んだり本を読んだりするのが好きです。お兄さんお姉さんたちのことはみんな好き。でも新しいお兄さんお姉さんたちとはけんかします。」

「クリニックにいられて幸せ。たくさんの人が助けてくれる。メー・ソーは私とワイに服をくれました。」チョーは病棟を走りまわり、ごはんの入った入れ物を運ぶ女性たちを手伝い、小さな子どもたちをおもしろい顔で笑わせている。

3 人の母親であるメー・ソーは語る。「チョーは積極的な子です。彼女はお手伝いできるところは全部やろうとします。私の 11 歳の娘がしているところは想像できません。彼女は遊ぶことだけ考えていればいいと思う。チョーはとてもよい子ですが、か弱い存在です。子どもが子どもの面倒を見ているのです。」